

■インコ：坂井 亮一（さかい りょういち）さん

愛鳥：オカメインコ「ゆら」「ぽい」

Instagram：@ryoichisakai

トップバッターはプロのカメラマンでもある坂井亮一さん。

「インコ担当ということで大阪からやって参りました。今日はInstagramを使った上手な発信の仕方についてお話ができればと思っています。昨今ワンちゃんやネコちゃんがとても人気ですが、小鳥も負けずに人気が出てほしいと思って頑張っております。」

坂井さんの愛鳥はオカメインコ。インコと名前についていますがオウム科の動物です。

「オカメインコ2羽と暮らしています。オカメインコは羽の色がいろいろあるのですが、片方はホワイトフェイスと呼ばれる羽色の『ゆらちゃん』です。オカメインコはその名前にあるように、ほっぺたにオレンジの丸い柄が入っている鳥なのですが、ホワイトフェイスの場合は色素が薄まっているので顔が真っ白になります。彼は今12歳、人間でいうと60歳くらいにあたるそうです。もう一羽は6歳の『ぽいちゃん』です。こちらも男の子になります。ぽいちゃんはシナモンパールという羽色で、オカメインコ独特のオレンジのほっぺたを持っています。」

本日のテーマは3つ。①つづける、②きわめる、③つながる、それぞれについてお話が進められていきました。

「まずは簡単に説明します。①つづける、については、SNSを続けることって結構大変ですよね。ネタがない、投稿する写真がないなどよくあることです。つぎに②きわめる、ですが、続けるためにはカメラの技術をしっかり身につけたいというお話です。パソコンで写真の現像作業をしているのですが、どんな風にそれをしているのかを含めてご紹介したいと思います。3つ目の③つながる、ですが、SNSはやはり他の方と繋がるからこそ面白いものなのだと思います。写真や動画を通じて世界中の人といろんな言語で繋がる楽しさを感じています。」

3つのテーマの根底に共通して存在するもの、それは『愛』だと坂井さんは言います。

「ペットや家族に対する愛がなければ決して続きませんし、極めることもできません。さらには他の方々とも繋がっていかないと思うのです。私はインコ2羽をものすごく愛しています。愛しすぎて過保護なくらい、箱入り息子たちです（笑）。鳥は散歩に連れていけないので、ある意味ほんとうに箱入りではあるのですけれど。」

愛してやまない2羽と暮らしながら、SNSをする上で大切なことは何であると考えているのでしょうか。

「多くの方が、キレイな写真を撮るのが大事だ、いいねを沢山もらうことがSNSの醍醐味だ、フォロワーを増やすことが大切と考えるかもしれませんが、私はこれらのどれも重要だとは思っていません。私にとってSNSをする上で一番大切なのは、ペットが喜ぶことだと思っています。」

では、ペットが喜ぶこととは、いったいどのようにすることなのでしょう。

「私はそれを、『名前を呼ぶこと』と定義しました。ペットはおそらく自分の名前を認識していると思うのです。ゆらちゃんは自分をゆらちゃんだと思って生きていると思いますし、ぽいちゃんも同様です。なぜなら飼い主さ

んが何度も何度もペットの名前を呼べば、いずれペットは自分自身がその言葉の当人であると感じくと思うからです。うちの鳥たちは名前を呼べば振り向きまし、喜びもします。私自身、ゆらちゃんやぽいちゃんがそこになくても、彼らの名前を口に出してつぶやくだけで姿が脳裏に浮かび、嬉しさを感じているものです。ちょっと危ない人みたいですけど（笑）。」

インコに限らず、犬も猫も、小さな子どもと同じように名前を呼べば反応するものです。

「だからこそ、大前提としてペットの名前を読んであげることが、ペットの喜びにつながると思うのです。」

①つづける ために

1. 次の一步を準備する

「私は、毎日の投稿で彼らへの愛情を表現しています。ペットの種類によっては、美味しいおやつをあげたり、一緒に遊んだり散歩に行ったりすることでもあるでしょう。とはいえ正直なところ、仕事人間なので家にほとんどいません。朝起きても彼らはまだ寝ていますので会えませんし、帰ってきてても寝ています。ではいつ写真を撮っているのかというと、週末にまとめて撮っているんです。インスタグラムで毎日投稿しているのに詐欺なのでは？と思われるかもしれませんが。週末に1週間分を撮り溜めして週明けの1週間に備える、というようなことを続けています。」

『つづける』のためには、何よりもまず次の一步を準備することが大事になってくるのだそうです。

「とにもかくにも一步一步です。私の中では『一步＝一週間分の投稿』と定義しています。ネタがなくなると毎日続けるのが困難になるので、1週間のテーマを考えるようにしています。インスタグラムを始めて7年になりますが、そうしてきたことで毎日最低でも1枚公開し続けてこれています。」

毎日投稿するのも大変なことながら、実は、坂井さんの愛鳥2羽はあまり相性があわず、仲がよくない関係なのだそう。

「2羽が仲良く毛づくろいし合うような姿を見たくてぽいちゃんを迎えたのですが、先輩であるゆらちゃんのジェラシーがすごく、ぽいちゃんと仲良くしてくれそうな気配がまったく見られませんでした。動物病院の先生に状況を相談したら、同時に放鳥しないでくださいと言われました。お互いにストレスになりますから、と。です。ので今はそれぞれ1時間ずつくらい放鳥時間をもうけて、別々に写真を撮っています。テーマに沿って楽しんで見てもらえるよう、写真を合成することもよくあります。」

ちなみに坂井さんは今回の例会に向け、通常毎日1枚のところをこの週は3枚ずつアップし続けてこられたそうです。

「各曜日に流行りのハッシュタグがあります。たとえば月曜日はMondayのMをとって“Monday Motivation”、月曜日はモチベーションをあげていこう！という意味を持つハッシュタグがあるのですが、それがつけられた投稿が世界中でアップされています。」

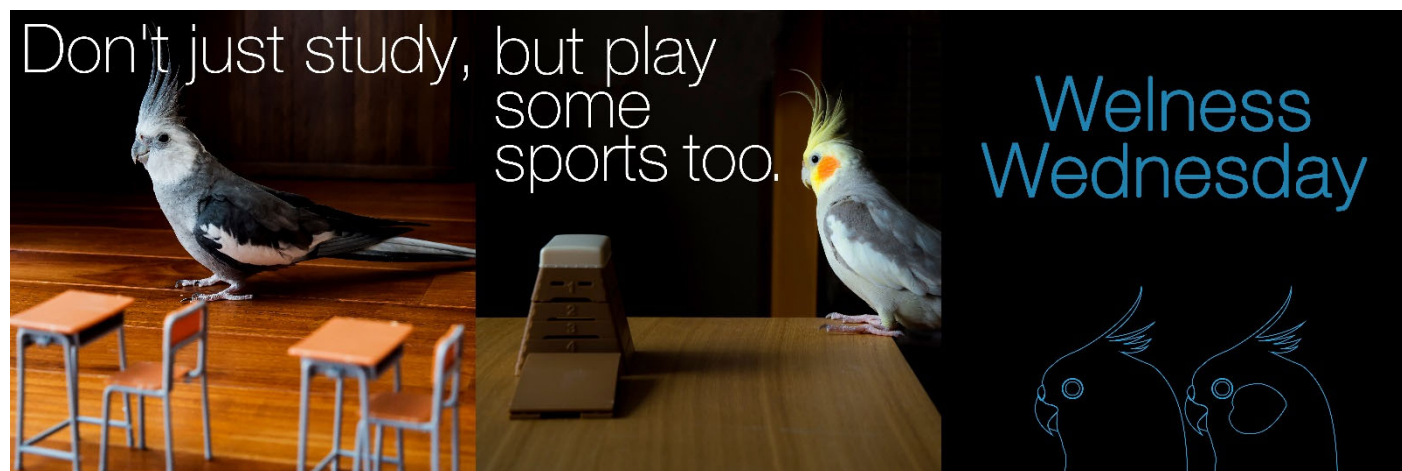
ちなみに火曜日のハッシュタグは Tuesday Trivia、水曜日は Wellness Wednesday、木曜日は Thankful Thursday、金曜日は Foodie Friday、そして例会の開かれた土曜日は Social Saturday となっているそうです。毎日3枚アップされた画像は、1枚1枚見ても楽しめるものでありながら、3枚が横に並ぶとひとつのアートのようにになっています。坂井さんのアカウント画面 (<https://www.instagram.com/ryoichisakai/>) にアクセスしてぜひご覧ください。



月曜：おやすみ明けの月曜日、みんなでモチベーションをあげていこう！



火曜：オカメインコの耳はどこにある？トリビアをクイズ形式で楽しんで。



水曜：勉強ばかりしていないでスポーツもやろうよ！



木曜：日頃感謝していることを感謝。いつもゆらちゃんとぽいちゃんを応援してくれてありがとう。



金曜：インコたちの大好きな青梗菜をイラストを交えてアップ。



土曜：J-PETS のマークに向かっている 2 羽のインコたち。今日は東大でスピーチするよ！

「1 週間分のネタを用意しておけば、今日はどうしようと追いつめられずに気持ちが楽です。週末にいい写真が撮れなかったときには過去のネタを引っ張ってきてなんとか穴埋めをしています。」

誕生日の週には誕生日をテーマとした 1 週間、ヒナ時代と今の写真を比べて投稿する 1 週間、梅雨やクリスマスなど季節をテーマにしたり、ときにオカメインコをキャラクターとして描いた 4 コマ漫画をアップしたり多岐に

わたるテーマを考え投稿してきたそうです。

「写真や動画だけではなく、イラストやパロディなども取り入れてメリハリを出すと、見ている人によりいっそう楽しんでいただけるのではないかと考えてやっています。」

2. 次の一步にこだわる

次の一步を準備したならば、つづいて次の一步にこだわるのが大切だと坂井さんは言います。

「投稿が途切れないようにするのがとにかく大事だと思っています。ですが、投稿したものの画像があまり気に入らないと感じるようなら、すぐに投稿を取り下げて再投稿するのをいとわないのも同じように大事だと思います。」

こだわりは写真の美しさにも。

「見たままをカメラにおさめて現像する作業は大変ですが、一定のクオリティ、美しさを保ってアップし続けることもとても大事な要素だと思います。クオリティを保つためにはどのような技術がいるのかというと、それが大きな2つ目のテーマになります。」

②きわめる ために

「ペットと暮らしていると、みなさんそれぞれハッとする出来事があると思います。たとえばワンちゃんとの散歩中に首輪が外れたらハッとすると思いますが、私の場合は歌声が聞こえるとハッとします。2羽の歌声を聞くと、ああ、自分もカメラを頑張らなくちゃなあと思うんです。そうしてカメラを極めたいと思うようになりました。」

坂井さんは撮影した写真を元の姿に戻すということからある言葉を考えつきます。

「トリモドス、すなわち、撮り・戻すということです。そこで、撮るコツと戻すコツについて、まずは撮るコツから紹介したいと思います。先ほどペットの名前を呼ぶと喜ぶというお話しをしましたが、名前を呼びながら撮るとすごくいい写真が撮れます。鳥だけでなくお子さんも、ワンちゃんやネコちゃんも、名前を呼びながらレンズを向けるといい顔をしてくれるんです。」

名前を呼ぶことも非常に大事。けれど実はそれ以上に大切にすべきことがあると坂井さん。

「ペースにあわせて撮る、ということです。鳥が何かをしようとしているときにはそのペースを乱さないようにしてとにかく待ちます。振り返る姿を撮りたいときには、振り返ってくれるのを待つ、振り返らないかもしれないけどじっと待ち続ける、ということです。ようやく振り返ったら、その瞬間に連写します。忍耐のいる作業になります。」

見せながら撮るのも、コツのひとつ。そのためにはペットが好きなことを知っておく必要があります。

「ぽいちゃんは紙のカサカサという音が好きなんです。カサカサという音を合図に歌い始めて、歌いながら足を

上げ下げするのですが、その瞬間を逃さずシャッターを押します。その子の好きなものを知って、それを見せながら写真を撮ると、なかなかいい写真が撮れると思います。つまり、はじめからインスタ映えを狙った写真を撮ろうとすると、どうしても人間のペースになってしまうのです。動物はそれを察知してしまいますから、それではどうしてもいい写真が撮れないものです。相手のペースに合わせたり、好きなものを見せたりして撮影するほうが、結果的にインスタ映えするいい写真になるでしょう。」

さらに、プロカメラマンでもある坂井さんからカメラ初心者にもすぐに実践できる5つの撮るコツの紹介がありました。

「1つ目は『余白撮り』です。撮りたい構図を決めるときに空間をあけます。ピントは動物の目に合わせてシャッターを切ります。余白があいているとその部分に文字をいれやすいので、あえて余白をつくっておくという方法です。2つ目は『地撮り』になります。地面にカメラを置いて撮る方法です。地面にカメラを置くとファインダーをのぞけなくなってしまいますので、L字型をしたアングルファインダーというものをカメラに取り付けておき、上からのぞいて撮影をします。地撮りをすれば鳥と同じ目線での撮影が可能になります。」

地撮りにはアングル液晶という、液晶画面がひっくり返せるような機能をもつカメラを使う方法もあるそうです。

「3つ目は『プル撮り』です。簡単に言えば、左腕に鳥を乗せ、右手だけで重たいカメラを持って撮影する方法になります。いいアングルが決まったら、右手のプルプルを我慢しながらシッカリ脇をしめてシャッターを切ります。4つ目は『おうた撮り』。これは鳥が歌い始めたら、こちらが歌に合わせて指揮をし始めて、シャッター！になります。」

そうすることで、実際は人が鳥に合わせて指揮しているのを、人の指揮に合わせて鳥が歌っているように見せることができるそうです。

「最後は『歩く軌道撮り』です。鳥が歩くルートはだいたいわかりますので、想定したルートのポイントごとにシャッターを連写します。これも鳥目線で撮るため、寝そべって待機しておきます。余白撮りと地撮りが合わさったような感じになりますね。」

つづいて、撮り・戻すの、戻すコツについての紹介に。戻すコツとはRAW現像（RAWデータを使った高画質な写真編集のこと）であるとのことでした。

「写真データは意外と暗いものなんです。ファインダーで見たときはきれいに撮れていたはずなのに、スマートフォンで見るとなんだか色が違うというようなとき、データを見たままの元の姿に戻します。それがRAW現像です。パソコンを使って現像をします。撮ったそのままだと暗いうえに、自分にあえて暗く撮るのが好きなんです。明るめに撮ってそのままインスタにアップすればいいのでは？と思うかもしれませんが。」

どうして坂井さんは暗めに撮るのが好きなのでしょう。

「実は、明るめに写真を撮ると色情報がカメラにあまり残らないんです。ある程度暗くして撮っておくほうが色情報がデータとして残ります。色情報を補正するよりも暗いものを明るくする方が簡単なんです。RAW現像したデータは、次にフォトショップというソフトを使って加工していきます。」

たとえば水浴びをしている様子は、ISO 感度をあげて超高速で連写し、水しぶきがはっきりわかるような数値で現像をして仕上げるという方法をとっているそうです。



「出来上がった写真には、それぞれに合ったコメントとピッタリなハッシュタグが必要です。たとえばハリネズミのぬいぐるみと一緒にゆらちゃんがいる写真ならば、ハリネズミというハッシュタグもつけて投稿します。」

そのようにすることで、ハリネズミのハッシュタグをチェックしている人の中に、一緒に写っているオカメインコも可愛い！と流れてくることがあるからだそうです。

「写真の良し悪しは決して道具のせいにしないでください。どんなにいいカメラを持っていたって、いいスマートフォンを持っていたって、自分の思いや技術がないと極めていくことはできません。自分の腕を大いに磨くことも大切だと思っています。」

③つながる ために

最後のテーマは SNS の持つ大きな特徴でもある『つながる』についてでした。

「平日は仕事ばかりしていますので、もしもひとりで2羽の面倒を見ていたとしたら1カ月も彼らの命は持たなかったと思います。家族の助けがあったからこそ、2羽が元気に育っているのです。そして、そのようにして元気に育ってくれているからこそ、たくさんの方々と『つながる』ことができるのだと思っています。」

つながることへのモチベーションはどこにあると感じているのでしょうか。

「私の中にはいろんな人に喜んでもらいたいという願いがあります。ゆらちゃんとぽいちゃんにも喜んで欲しいですし、フォローしてくれている方もしていない方も、見てくれているみなさんにも喜んで欲しいです。自分自身も喜びたいと思っています。だから、つながっているんです。」

喜んでもらうために、つながるために、坂井さんはInstagramの枠を超えたところでも実にさまざまなことをされています。

「たとえば、つながる方法として、フォロワーの方の愛鳥の写真をメールで送ってもらい、それを元にキャラクターをつくって4コマ漫画を描いて送り返します。すると、その方はその漫画を投稿したりシェアしたりしてくれます。出来上がったキャラクターを木製のタマゴにペイントし、それを写真に撮ってお送りしたりすることもあります。」

Instagramに写真をアップする形で不特定多数の人々に発信するだけでなく、特定の相手に喜んでもらえる数々の工夫をしてくれているのです。

「InstagramにはLIVE中継ができる機能があり、それを使って年に数回LIVE抽選を行っています。たとえば、世界にたった一つしかないゆらちゃん&ぽいちゃんカレンダーが欲しい人はメールをくださいとお伝えしておきます。アカウントを書き写した紙片をひっくり返して床に散らばせ、それをゆらちゃんがついばんでひっくり返した人が当選です！と商品をプレゼントしたりしているんです。喜んでいただくためにもプレゼント抽選はすべて無料でやらせてもらっています。」



逆に、ゆらちゃんやぼいちゃんの絵を描いて坂井さんへ送ってくれる方もいるそうです。SNS を通じて知り合った者同士でありながら、SNS 以外のところでも何かを共有できる喜びを通じてお互いによりつながりあうことができる」と坂井さんは言います。

「プロの方に絵を依頼することもあります。今はなかなか絵が売れない時代ですから、画家のみなさんを応援したいという思いもあるのですが、実はもともと絵を描く仕事をしたかったということもありまして。私の場合は途中で諦めて、写真の方へ走ったというわけでなのですが。」

その他にもグッズの制作依頼を受けたり、取材を受けたりすることもあり、ぼいちゃんはマガジンハウスの『#とりまみれ』の表紙を飾ったことがあるそうです。

「すごく嬉しかったですねえ。本屋さんへ行くといっぱいぼいちゃんが並んでいるのですから。このようにして、Instagram を通じていろいろな方とのつながりが広がっていき、私自身も励まされますし、もっともっと鳥のすばらしさを伝えていきたい、頑張ろうとあらためて思うのです。オカメインコの2羽は、神様から与えられた素晴らしいプレゼントだと思っています。」

ー通常お使いなのはスマートフォンではなくて一眼レフカメラですか？

坂井さん：スマートフォンで撮影する私の技術が及ばないのかもしれませんが、それよりもやはりカメラで撮影の方が編集しやすいこともありカメラを使っています。一時期ペンタックスにこだわっていましたが、カメラの中で一番いいと思うものを使ってそれでもいい写真が撮れなかったら諦めようかとふと思ひまして。ペンタックスをすべて売り払い、ニコンの一番いい機種で連写の速いものを買って今はそれを使っています。

ーInstagram にアップした写真に「いいね」がつく数は、多いときと少ないときと差があるものなのですか？

坂井さん：そうですね、差はあります。ずっとやっていると、この写真には「いいね」がたくさんつくだろうな、というのがだいたい分かってきます。たとえば小鳥の場合ですと、人間の目では見えないような部分までクローズアップされている写真や、飛んでいる瞬間などはかなり人気がでますね。写真は半日で何百枚も撮るのですが、その中で自分なりに使えそうだと思うものは10枚くらいです。写真選びはすごく意識してやっています。

ーテーマ決めはどのようにしているのですか？

坂井さん：テーマを決めて撮影するというより、出来上がってきた写真を見てテーマを決めています。

ーInstagram をやっていてよかったこと、悪かったことは何ですか？

坂井さん：やっていてよかったと思うのは、自分のカメラの技術が上がったのかなあという点です。仕事に活かせるので。逆に、続けることで家族に迷惑をかけてしまっていることが多いです。インスタばかりやって！パソコンの画面ばかり見て！というようなことはたびたび言われてしまいます。